

令和2年度渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会（第3回） 会議録

1 日時

令和3年3月23日（火） 午後1時30分から3時10分まで

2 場所

東三河総合庁舎 303 会議室

3 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

4 会議内容

(1) 開会

(2) あいさつ（愛知県農業水産局 野生イノシシ対策室 小出室長）

- ・ 今年度、本協議会は6月、12月と2回開催したが、新型コロナウイルス感染症のため書面開催となっており、年度末になりやっと3回目を対面の形で開催することができた。この間、8月には豊橋市で、9月には田原市で豚熱陽性イノシシが確認されており、豚熱ウイルス拡散防止の難しさを実感している。
- ・ 渥美半島の野生イノシシ根絶に向け本協議会が発足して約2年が経過し、構成員各位の尽力のもと、捕獲強化等の取組を実施してきた結果、イノシシの生息頭数は減少傾向にあると考えられる。
- ・ 本日の会議では、これまでの捕獲状況や、生息状況調査の結果に併せ、今年度のまとめと、今後の予定等をご説明させていただくので、率直な意見をいただき、今後の取組に活かしていきたいと思う。

(3) 議事（議長：野生イノシシ対策室 小出室長）

① 野生イノシシ捕獲状況等について

資料1-1、1-2、1-3に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・ 今年度の捕獲頭数は、2月末現在の速報値で416頭。昨年度の約6割に留まり、捕獲目標（885頭）は達成できない見込み。
- ・ 減少割合は地域によって異なり、豚熱陽性のイノシシが確認された周辺の減少割合は大きく、陽性個体が未確認の表浜海岸沿いの緑地帯は減少割合が少ない。
- ・ 歯列確認による年齢査定の結果、両市とも1歳未満の捕獲が約2/3となっている。

【質疑・意見等】

（有識者）岐阜県内の生息状況について、豚熱陽性が確認された後は生息頭数

が減少する傾向は愛知県と同様である。岐阜県で行っている生息調査の結果も、今月末に論文が公開される。

(田原農業改良普及課) 豚熱経口ワクチンは、他県も同様に散布されているか。特に静岡県は豚熱陽性のイノシシが愛知県より多いと感じる。

(愛知県) 経口ワクチンは他県でも散布している。静岡県で豚熱陽性が多いと感じるのは、検査件数が多いことや、ワクチンの累積散布数及び散布の開始時期と豚熱ウイルスの拡散の時期の兼ね合い等が影響していると思われる。

愛知県では、豊橋市、田原市へのワクチン散布は、イノシシの豚熱陽性が確認された時期よりも大分前から行っており、検査結果でも抗体を持った個体が確認されていることから、豚熱陽性の確認数が少ないのは、ワクチン散布による効果もあると考えている。

(狩猟連合豊橋) 経口ワクチンを散布した時期と、イノシシの姿を見かけなくなった時期がほぼ同じだったことから、ワクチンの影響でイノシシが死亡した可能性があるのではと感じている。1 散布地点で 20 個のワクチンを散布することだが、例えばそれを全部 1 頭のイノシシが摂取した場合、毒になることはないか。

(愛知県) 国の指針に散布方法が示されており、それに従い 1 エリアに 10 地点、1 地点に 2 個ずつ散布している。ワクチンの摂取によりイノシシが死亡することは考えにくい。

(有識者) 元々は、販売元のドイツの会社が散布方法を定めている。1 頭のイノシシが複数食べること、他の小動物も摂取することもあらかじめ想定されている。屋外に散布する以上、安全は担保していると考えられる。(会議後に、過剰摂取を含め安全性は十分に確認されている旨の連絡があった。)

(狩猟連合豊橋) 経口ワクチンについて、成獣は摂取後 1 年位抗体を持っているが、幼獣は持っていないと聞いている。

(愛知県) 母イノシシが抗体を持っていれば、授乳により子も抗体を得る。移行抗体と呼ばれるものだが、これは数か月で消失する。飼養豚が、注射によるワクチン接種を毎年行っていることから推測すると、豚熱ワクチンにより終生免疫が得られるものではなく、抗体は一定期間で消失してしまうかもしれない。

② 渥美半島における生息状況調査について

資料 2 に基づき事務局から説明

【概要】

- ・ 自動撮影カメラを活用した野生イノシシの生息密度調査及びフィールドサイン（掘り返し）調査の結果、野生イノシシの生息密度及び生息頭数は減少しているとみられる。令和 3 年 1 月時点で渥美半島全域（豊橋市北部除く）における野生イノシシの残存頭数は、統計解析により 166 頭（50%信用区間）と推定された。

- ・ この結果を受け、野生イノシシ根絶の実現可能性調査を実施したところ、根絶を達成するためには現状と同等かそれ以上の捕獲圧が必要であるとされた。また、他地域での取組事例も踏まえ、導入可能な効率的捕獲手法の提案や調査の継続の必要性が示された。

【質疑・意見等】

なし

- ③ 2020年度取組結果のまとめと2021年度取組について
資料3-1、3-2に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・ 2020年度取組結果及び評価について説明。
- ・ 捕獲実績は目標を大幅に下回っている。成獣の捕獲が重要であるが、幼獣の捕獲が多いため、対応が必要である。
- ・ 生息状況調査の結果、渥美半島地域（豊橋市北部を除く）における生息頭数が推計できた。その結果、生息頭数は減少していると考えられた。なお、大山地域では生息場所に季節変動が見られ、捕獲に際して対応が求められる。
- ・ 根絶の実現可能性調査の結果、捕獲圧の継続的な強化と新たな効率的捕獲手法の導入が必要であることが示された。
- ・ 2021年度は、継続的な調査や捕獲強化の取組に加え、新たな捕獲手法の検討及び試行を行うことなどにより、捕獲目標頭数を900頭として取組を実施していくこととする。

【質疑・意見等】

（JA愛知みなみ）田原市の来年度捕獲目標は500頭とあるが、議題2の生息調査で推定される生息頭数はそれよりかなり少なく乖離があるがどう理解したらいいか。

（愛知県）捕獲目標は、市の有害鳥獣捕獲の計画や県の委託捕獲の目標頭数から設定しており、予算措置も含めた事業計画としての目標でもある。今回お示した生息調査における頭数は、実際の調査データにより算出した推定値であり、ばらつきを考慮した中央の値（50%信用区間）である。推計値の幅を広めにとった場合は500頭を超える頭数も算出されうる。このため、捕獲目標としては、根絶に向けた安全側という観点からも500頭を掲げて進めていく。なお、生息調査の推定値は今回まとまったばかりであり、今後も捕獲実績や生息状況調査の結果など踏まえ、生息頭数の推計を行っていく。

（田原農業改良普及課）豊橋の豚熱陽性イノシシは、静岡県と同じウイルスと想像しているが、田原市で陽性が確認されたイノシシは、平成31年から田原市内の飼養豚で発症した豚熱と何か関連があれば教えて欲しい。

（愛知県）田原市の豚熱陽性について、国でそのシーケンスを調べた結果、岐阜で発生して拡散したウイルスと同じ型であった。愛知県内は全て同じ型のため、どこから来たウイルスかを明らかにできない。

(田原農業改良普及課) 渥美半島のイノシシ根絶の見通しや協議会の今後について教えて欲しい。

(愛知県) 当面は、3年間は根絶を目指して強力に取り組を実施していくという意識はあるが、現実的には渥美半島における根絶の達成は厳しい状況である。来年度以降も取組を継続していくためには、相応の予算確保も必要である。このため、来年度はこれまでの成果を踏まえつつ、今後の進め方を検討していくこととなる。

(田原農業改良普及課) 田原市でもイノシシが豚熱に感染し死亡することによって生息頭数が減っているとのことだが、実際かなり死亡しているのか。

(田原市農政課) 田原市の豚熱陽性が確認される前後で、イノシシが死んでいるのをよく見かけるようになったとの話は聞いている。しかし、それらの死亡イノシシは検査ができていないので、豚熱で死んだものかどうかまではわからない。

(愛知県) 愛知県内のイノシシの豚熱陽性が確認された地域では、いずれも陽性確認の時期と前後して死亡イノシシの報告が増え、捕獲頭数も大幅に減少している。

なお、早期に陽性を確認した尾張北部地域では、捕獲頭数が急増しており、生息頭数が急回復しているとみられるため、渥美半島地域でも今後の動向に注意する必要がある。

(J A豊橋) 農協という現場の立場としては、イノシシの生息数が減っているということは豚熱の影響と考えられるとしても、歓迎すべき状況なのか。それとも山奥で豚熱が蔓延していると考え大変な事態と受け取るべきなのか、どのように理解したらいいか。

(愛知県) 豚熱対策としては、野生イノシシの個体数を減らすことと、抗体を持たせることが2本柱である。現在渥美半島ではイノシシの個体数は減っていると考えられるが、抗体の保有状況については、他地域に比べて検査数が少ないこともあり評価しづらい。

このため、検査件数を増やしたいと考えており、野生イノシシを捕獲した場合の血液検体の提供が増えるよう、市、捕獲者の協力をお願いしたい。

以上